

沖縄の魅力生かす集客事業

観光
メニュー開発



沖縄観光の振興などに取り組み民間の事業を沖縄県が支援する「元氣プロジェクト」。4年目の今年度は21事業が展開されている。このうち「観光メニュー開発」を目的とした3事業を紹介する。
(問い合わせは「元氣プロジェクト事務局」098・862・4414、mailto:genki.project.jp、または「沖縄元氣プロジェクト」で検索)

台湾客向けに周遊バス

おきなわ北部観光推進協議会



実証実験でシャトルバスと周遊バスを運行

に常設したい考えた。

交通網の整備では、台湾からの旅行者を対象にした実証実験として、那覇空港―名護間を結ぶシャトルバスと、北部地域を巡る周遊バスを1月20日～2月2日の期間に運行。台湾からの就航便に合わせて1日2～4便運行し、利用状況や周遊への効果を検証する。

観光事業者などでつくる「光推進事業」に取り組んでいる。交通網の整備に向けた実証実験や着地型観光商品の開発などに着手。将来的には北部の観光を活性化させるため、「統合型やんばる観光ストップの拠点」を名護市や恩納村のリゾートエ

滞在型確立へ商品開発

リアを結ぶ「東線」の3路線を設定した。国内外の旅行者を対象とした着地型観光の活性化では、名桜大学(名護市)の学生をモニターと



南部エリアには観光資源が充実

南部エリアへの宿泊につながる着地型旅行商品の造成、販売などを推進する事業に、おきなわワールドなどの観光施設を運営する南部(那覇市)

が取り組んでいる。地域観光協会や事業者で構成する開発委員会を設立し、南部エリアの新たな観光資源を磨き上げてP

して北部の地域資源に対する意見を聞いたほか、台湾を含む県外の旅行会社の担当者を招いたモニターツアーを開催予定。いずれも新たな観光商品の開発に生かす。

な楽しみ方を提案する。

南部エリアは、那覇市に隣接する地域でありながら、昔ながらの自然や文化が色濃く残る。例えば、鍾乳洞が崩壊してできた谷間に広がる森「ガンガラーの谷」は、近年、ガイドツアーが人気を集めている。

南部総務部企画課の中村明男係長は「南部エリアには宿泊や滞在時間の延長につながる可能性を秘める資源が数多くある。他にない地域の価値を提案したい」と語る。事業全体は今年度から3～5カ年計画で、官民一体の地域協働プロジェクトとして推進。昨年12月には、南城市観光協会をはじめ南部エリアの宿泊施設や観光施設の担当者メンバーとする開発委員会を立ち上げた。

品のあり方を検証すると同時に、観光商品の提案や販売、交通機関の手配などを担う「観光情報・交通センター」(仮称)を名護市に設置し、北部周遊観光の拠点とするための検討も進めていく。

開発委員会はまず、地域の魅力を再点検し、着地型旅行商品へと磨き上げる資源を絞り込む。都

八重山に着地型ツアー

JAL JTAセールス



与那国島のクバの葉弁当(左、撮影・今村治華)とヨナグニウマの乗馬(右、同・地島大樹)

JAL・JTAグループの旅行事業を担うJAL JTAセールスは、自然や文化、食などの島策や地産地消の促進などの「宝」を大切に、八重

の旅行業の担当者を招聘して地域を見てもらい、意見を聞く予定。次年度以降は、着地型旅行商品のモニターツアーなどを実施し、参加者の反応を踏まえてさらに改善を加えていく。

着地型旅行商品のほか、土産品の開発にも取り組む。関係企業と連携コースがある。まちま

人たちとともに、地域の宝を見つめ直し、通年型の11コースを造成した。

与那国島では、在来種の小型馬、ヨナグニウマと触れ合うコース、古民家で民具づくりを体験し、地元の伝統的な食材を使った昼食を堪能するコースなどがある。

農耕馬として島の生活を支えてきたヨナグニウマは、今でも乗馬などを通じて住民と心を通わしている。ツアーでは浜や牧場で馬に乗ったり、馬

民具づくり体験は、築約70年の赤瓦屋根の古民家で、与那国島を代表す

る木、クバ(ビロウ)の葉を使って、うちわや玩具を製作。昼食はクバの葉弁当。沖縄本島では食

石垣島には、サンゴの石垣が美しい白保地区で「まちまーい」を楽しむコースがある。まちまー

イドの多くは70歳以上の住民。那覇観光で人気の「那覇まちまーい」に参加してもらうなど、ガイドの研修を積んだ。

これらの着地型ツアーを紹介するパンフレット「時を旅する、八重山」を作成。県外の旅行会社の商品に組み込んでもらおうと、1月に2回のモニターツアーを実施し、約30人が参加した。

JAL JTAセールスの小浜琢也総務部長は「八重山の魅力は美しい海やダイビングだけではない。沖縄本島とも異なる独自の自然や文化を多くの人に体験してもらいたい」と話している。